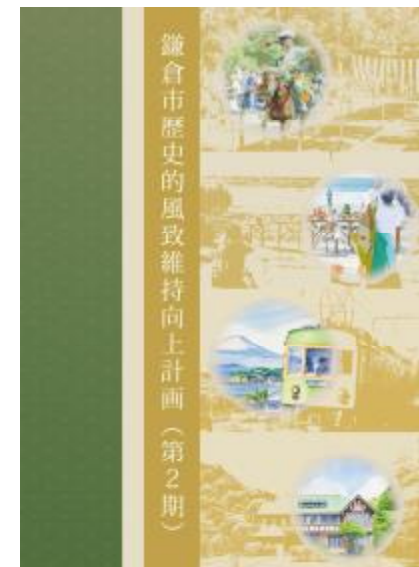


鎌倉市歴史的風致維持向上計画（第2期）（素案） に対する修正について



■整理番号 No.1

【第2章 P198 b 坂井家住宅における保存・継承活動】

坂井武三郎氏の活動は、個人的な活動に写るため、その他で地域住民による活動内容があれば記載する。困難な場合は、「鎌倉風致保存会」の活動が歴史的風致を形成する活動（20年以上前から活動している）と保存会の設立年度を記載する。

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

b 坂井家住宅における保存・継承活動

坂井家住宅は、平成 25 年（2013 年）に鎌倉風致保存会に寄贈されるまでは、住居として使用されていたため、一般に公開はされていなかった。しかし、昭和 50 年頃（1975 年）より前から、前所有者で水彩画家として作品を残した坂井武三郎が和館、洋館、また敷地内の水彩画を多く描いており、作品を絵画コンクールや展示会に出展することで、歴史的な建造物として周知・啓発に努めていた。また、鎌倉風致保存会に寄贈されてからは、ボランティアによる庭園、敷地の整備が行われており、活動の日には、庭園の整備をしている様子を周辺の道路から見る



写真2-238 風致保存会による庭園整備の様子

ことができる。



第2章 鎌倉市の維持及び向上すべき歴史的風致

機感から個人の手が挙がり、有志が集まり、「一般社団法人太佛次郎文学保存会」が令和 2 年（2020 年）に継承した。その後、同団体と鎌倉市風致保存会により、春と秋の公開が行われており、公開日には旧太佛次郎茶亭を見ようと市内外から人々が集まってくる様子が見られる。



写真2-239 庭園整備の様子

また、坂井家住宅は、平成 25 年（2013 年）に鎌倉風致保存会に寄贈後、ボランティアによる庭園、敷地の整備が行われており、活動の日には、庭園の整備をしている様子を周辺の道路から見る

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

（イ）鎌倉風致保存会の活動

御谷騒動を契機として文化人や著名人が発起人となり鎌倉市からの出資を受け、先述のように財団法人鎌倉風致保存会が設立された（平成 23 年（2011 年）4 月より公益財団法人となる）。昭和 41 年（1966 年）に集まった寄付金と鎌倉市からの出資で「御谷の森」1.5ha を買収したことで我が国初のナショナルトラスト運動となった。

現在、鎌倉風致保存会は鎌倉市内に 8.0ha の緑地を所有管理するほか、坂井家住宅の活用を行うなど、歴史的建造物の保存・継承を図ることで、古都保存法制定に至る経過の周知や風致保全の重要性など幅広い普及啓発活動を進めている。

現在、会は鎌倉の自然の風光と豊かな文化財を後世に伝えることを目的に活動を継続し、市民の理解と意識の継承を図っている。また、活動に際しては、会の主旨を広く説明し、会の活動への参加と募金の協力を広く呼び掛けている。

■整理番号 No.6

【第1章 P48 キ 英勝寺】

文章内の「英勝院」がどのような人物か不明。「家康の側室で、水戸家初代の徳川頼房の養母となった、という記述」があると、後出の徳川光圀との関わりが明確になる。

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

キ 英勝寺

重要文化財の建造物5棟（仏殿・山門・鐘楼・祠堂・祠堂門）を有する。

英勝寺は浄土宗の尼寺で、西に源氏山が控え、南は寿福寺と隣接する。東南端の惣門から入ると、右手に鐘楼、北に折れて山門の正面に仏殿がたち、山門・仏殿の西側の段に開基英勝院の祠堂がある。山門と仏殿及び鐘楼は寛永創建時の建築で、祠堂と祠堂門（唐門）も江戸初期の建築である。



写真1-46 英勝寺 山門



写真1-47 英勝寺 祠堂門



写真1-48 英勝寺 鐘楼



写真1-49 英勝寺 仏殿

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

キ 英勝寺

英勝寺は江戸時代初期の寛永13年（1636年）に創建された浄土宗の尼寺で、西に源氏山が控え、南は寿福寺と隣接する。開基の英勝院は徳川家康の側室であったが、水戸徳川家初代の徳川頼房の養母でもあったことから水戸徳川家とのゆかりが深く、徳川光圀が鎌倉を訪れた際、英勝寺を宿所としている。

重要文化財の建造物5棟（仏殿・山門・鐘楼・祠堂・祠堂門）を有し、東南端の惣門から入ると、右手に鐘楼、北に折れて山門の正面に仏殿がたち、山門・仏殿の西側の段に開基英勝院の祠堂がある。山門と仏殿及び鐘楼は寛永創建時の建築で、祠堂と祠堂門（唐門）も江戸初期の建築である。



写真1-46 英勝寺 山門



写真1-47 英勝寺 祠堂門



写真1-48 英勝寺 鐘楼



写真1-49 英勝寺 仏殿

■整理番号 No.28・No.30

【第2章 P88(a) 寿福寺、第1章 P57 日本遺産のストーリー】 写真の入れ替え、文章の修正

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

（イ）その他の建造物

a 寺院

(a) 寿福寺

寿福寺は日本に臨済宗を伝えた栄西を開山とし、源頼朝が没した翌年の正治2年（1200年）に創建された。『吾妻鏡』の記述から、寿福寺のある場所は源義朝の屋敷があった場所と考えられており、源氏ゆかりの地であったことがわかる。亀谷山寿福金剛禅寺と号する。

源実朝もしばしば訪れ、七堂伽藍や塔頭が14もある大規模な寺院となった。境内は史跡に指定されている。境内のビャクシンも市指定の天然記念物に指定されており、山門の向こうに枝が広がる様子は禅寺の趣を感じさせる。

中軸上に惣門・中門・仏殿、仏殿東北に鐘楼、仏殿北側に客殿・庫裡が建つ。現在の仏殿は、正徳4年（1714年）の建築²¹で、方五間の規模で、屋根は寄棟造枝瓦葺屋根の禅宗様建築である。仏殿は、市指定有形文化財である。

山門の脇の小路を登ると、高浜虚子や大橋次郎など、鎌倉にゆかりの深い文化人の墓が建っている。

写真2-51 寿福寺

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

（イ）その他の建造物

a 寺院

(a) 寿福寺

寿福寺は日本に臨済宗を伝えた栄西を開山とし、源頼朝が没した翌年の正治2年（1200年）に創建された。『吾妻鏡』の記述から、寿福寺のある場所は源義朝の屋敷があった場所と考えられており、源氏ゆかりの地であったことがわかる。亀谷山寿福金剛禅寺と号する。

源実朝もしばしば訪れ、七堂伽藍や塔頭が14もある大規模な寺院となった。境内は史跡に指定されている。境内のビャクシンも市指定の天然記念物に指定されており、山門の向こうに枝が広がる様子は禅寺の趣を感じさせる。

中軸上に惣門・中門・仏殿、仏殿東北に鐘楼、仏殿北側に客殿・庫裡が建つ。現在の仏殿は、正徳4年（1714年）の建築²¹で、方五間の規模で、屋根は寄棟造枝瓦葺屋根の禅宗様建築である。仏殿は、市指定有形文化財である。

写真2-51 寿福寺

第1章 鎌倉市の歴史的風致形成の背景

番号	文化財の名称	建造物の指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
10	円覚寺	史跡、名勝、国宝（建造物）、県指定（建造物）、市指定（建造物、天然記念物）	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。
11	寿福寺	史跡、市指定（建造物、天然記念物）	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を伝えた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。詩人中原中也が亡くなる直前に境内に住まうなど、文士の創作活動の場となった。拝観は中門までとなっている。

第1章 鎌倉市の歴史的風致形成の背景

番号	文化財の名称	建造物の指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
10	円覚寺	史跡、名勝、国宝（建造物）、県指定（建造物）、市指定（建造物、天然記念物）	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。
11	寿福寺	史跡、市指定（建造物、天然記念物）	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を伝えた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。山門の脇の小路を登ると、高浜虚子や大橋次郎など、鎌倉にゆかりの深い文化人の墓が建っている。



■整理番号 No.31

【第2章 P192 d 旧大佛次郎茶亭】 写真の入れ替え

d 鎌倉の文化人に関する建造物

(a) 旧大佛次郎茶亭

旧大佛次郎茶亭は若宮大路とその東側に並行に走る辻説法通りに挟まれた、ゆるやかにカーブする細い路地沿いに位置し、落ち着いた色調の板塀は、郷愁をいざなう路地景観を形成している。板塀の奥には、鎌倉文士の交流の場でもあった茅葺きの茶亭が残る。建物は、大正8年（1919年）頃に建築されたとみられる。茅葺屋根を持つ数寄屋風の平屋建てである。鎌倉風致保存会の指定保存建造物になっている。



写真2-228 旧大佛次郎茶亭



d 鎌倉の文化人に関する建造物

(a) 旧大佛次郎茶亭

旧大佛次郎茶亭は若宮大路とその東側に並行に走る辻説法通りに挟まれた、ゆるやかにカーブする細い路地沿いに位置し、落ち着いた色調の板塀は、郷愁をいざなう路地景観を形成している。ここには、鎌倉文士の一人、大佛次郎が多くの仲間と交流した茶亭が残る。建物は、大正8年（1919年）頃に建築されたとみられる。茅葺屋根を持つ数寄屋風の平屋建てである。鎌倉風致保存会の指定保存建造物になっている。



写真2-228 旧大佛次郎茶亭

■整理番号 No.46

【第1章 P60 42 鎌倉市長谷こども会館（旧諸戸邸）】

施設の表記が各指定により異なっているため、表現を統一。

【現状の各表記】

歴史的風致形成建造物： 旧諸戸邸（旧鎌倉市長谷こども会館）

登録有形文化財： 鎌倉市長谷こども会館

市景観重要建築物等： 鎌倉市長谷こども会館（旧諸戸邸）

日本遺産構成文化財： 長谷こども会館（旧諸戸邸）

			欽彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。春と秋の公開日に庭園を一般公開（建物内部は非公開）。
42	鎌倉市長谷こども会館（旧諸戸邸）	登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。内部は非公開。
43	吉屋信子記念館	未指定	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。5、6、10、11月の1～3日、4、5、6、10、11月の土曜、5、6月の日曜、ゴールデンウィークに公開。公開日以外は学習施設として利用可。
44	旧里見寛邸	市景観重要建築	鎌倉文士の中心的存在であった作家里見寛が自ら設計に関



			欽彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。春と秋の公開日に庭園を一般公開（建物内部は非公開であるものの、敷地外から外観は見学可能）。
42	旧諸戸邸（旧鎌倉市長谷こども会館）	登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。内部は非公開。
43	吉屋信子記念館	未指定	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。5、6、10、11月の1～3日、4、5、6、10、11月の土曜、5、6月の日曜、ゴールデンウィークなどに公開。公開日以外は学習施設として利用可。

■整理番号 No.51 次ページへ続く

【第2章 P163 c その他の旧跡】 和田塚に関する記載及び写真を追加。

c その他の旧跡

鎌倉幕府ゆかりの屋敷跡などの旧跡は、建造物などの形としては、そのほとんどが中世の時代に消失しており、残ったものも近世時点が多くが消失している。しかしながら、源頼朝や北条家など鎌倉幕府との結びつきが強い旧跡は、往時をしのびせる場所として江戸時代の人々は多く訪れたと推察される。その証拠として、『新編鎌倉志』で取り上げられたことはもちろん、『鎌倉絵図』にも多く記載されている。

代表的なものとして、**十一人塚**を紹介する。それ以外の主な史跡・旧跡は表2-9に示す。

十一人塚は稲村ヶ崎から江ノ電「極楽寺駅」へ向かう道沿いにひっそりとたたずむ供養塔である。この地域には、元弘3年（1333年）の新田義貞による鎌倉攻めの際に、極楽寺坂切通の北条側の守りを突破した新田軍の大將の大館宗氏が、その後の猛反撃により、奮戦むなしく最後まで残った11人とともに討死したという話が残っている。この十一人塚は、そのときの11人を弔うため設けられた。市指定の史跡である。

敷地内には、供養塔以外に昭和6年（1931年）3月に鎌倉町青年団により建てられた史跡指導標という石碑が建っている。高さ約6尺、幅約2尺5寸の仙台石で作られている。一覧表で紹介した旧跡や名所にあったであろう建造物は、前述したようにすでに失われているが、鎌倉のまちの至るところでこのような石碑を目にすることができる。江戸時代の人々が巡っていた旧跡・名所の説明板として、鎌倉独自の景観を生み出している。

第2章 鎌倉市の維持及び向上すべき歴史的風貌



写真2-185 十一人塚



写真2-186 十一人塚の
史跡指導標

c その他の旧跡

鎌倉幕府ゆかりの屋敷跡などの旧跡は、建造物などの形としては、そのほとんどが中世の時代に消失しており、残ったものも近世時点が多くが消失している。しかしながら、源頼朝や北条家など鎌倉幕府との結びつきが強い旧跡は、往時をしのびせる場所として、近世以降の人々も多く訪れたと推察される。その証拠として、江戸時代に成立した『新編鎌倉志』や『鎌倉絵図』で取り上げられ、明治の古地図、地誌にも記載されている。

代表的なものとして、**十一人塚及び和田塚**を紹介する。それ以外の主な史跡・旧跡は表2-9に示す。

十一人塚は稲村ヶ崎から江ノ電「極楽寺駅」へ向かう道沿いにひっそりとたたずむ供養塔である。この地域には、元弘3年（1333年）の新田義貞による鎌倉攻めの際に、極楽寺坂切通の北条側の守りを突破した新田軍の大將の大館宗氏が、その後の猛反撃により、奮戦むなしく最後まで残った11人とともに討死したという話が残っている。この塚は、そのときの11人を弔うために設けられたとされ、市の史跡に指定されている。

敷地内には、供養塔以外に昭和6年（1931年）3月に鎌倉町青年団により建てられた史跡指導標という石碑が建っている。高さ約6尺、幅約2尺5寸の仙台石で作られている。一覧表で紹介した旧跡や名所にあったであろう建造物は、前述したようにすでに失われているが、鎌倉のまちの至るところでこのような石碑を目にすることができ、旧跡・名所の説明板として、鎌倉独自の景観を生み出している。

由比ガ浜にある和田塚は、江戸時代には無常堂と呼ばれていた場所である。明治以降、建暦3年（1213年）に起きた北条義時と和田義盛の武力衝突（和田合戦）の結果、和田方の戦死者を葬った場所と伝わる。近代に開墾が進んだことに伴い、周辺にあった石塔や遺骨などが集められた場所とも考えられるが、由比ガ浜一帯で繰り広げられたという和田合戦と結びつけられ、現在に至っている。



写真2-185 十一人塚



写真2-186 十一人塚の
史跡指導標



写真2-187 和田塚

■整理番号 No.51

【第2章 P166（イ） 歴史的遺産の顕彰・保護活動】 和田塚に関する記載及び写真を追加。

鎌倉市歴史的風致維持向上計画

（イ） 歴史的遺産の顕彰・保護活動

中世の時代から現在まで残った社寺や史跡の名所の数々は、美しい緑や海岸地域の景観とともに多くの人々を引きつけてきた。しかし、来訪者が求める鎌倉固有の景観や歴史的資源は、必ずしも常に安泰であったわけではなく、何度も喪失の危機に見舞われてきた。

武家の都として栄えた鎌倉は、鎌倉幕府の滅亡や室町時代の鎌倉府の消滅によって荒廃し、明治時代の神仏分離令による廃仏毀釈の風潮により社寺は大きな打撃を受けた。加えて、関東大震災では多くの歴史的建造物が損壊し、貴重な文化資源の多くが失われた。

このような危機的状况に直面しながらも、今もなお中世の趣や自然、景観が残っていることは、各時代における地域の人々や関係者の保全活動によるものが大きい。

『新編鎌倉志』に紹介され、その後江戸時代の遊山の対象となった名所では、鎌倉の歴史が風化しないよう顕彰活動が行われ、その場所の案内や歴史などを刻んだ史跡指導標などが建てられた。これらは、大正6年（1917年）から昭和31年（1956年）の間に鎌倉町青年会や鎌倉町青年団、鎌倉同人会などの民間の団体により、鎌倉に対する郷土愛の具体化と鎌倉の発展を目的として建立された。大正時代以降に建立された後、現在まで定期的に地域の人々やボランティアによる周囲の清掃や草刈りが行われており、風化など経年劣化は見られるが、十一人塚をはじめとして、建立当初の姿を残しているものが多い。

近年では、NPO法人鎌倉ガイド協会が主体となり、史跡指導標を3基建立している鎌倉同人会とともに、史跡指導標の文字の塗料を塗りなおすなど、その保全に努めている様子が折々で見られる。



写真2-187 十一人塚の史跡指導標
(昭和48年(1973年))



写真2-188 十一人塚の史跡指導標



鎌倉市歴史的風致維持向上計画

（イ） 歴史的遺産の顕彰・保護活動

中世の時代から現在まで残った社寺や史跡の名所の数々は、美しい緑や海岸地域の景観とともに多くの人々を引きつけてきた。しかし、来訪者が求める鎌倉固有の景観や歴史的資源は、必ずしも常に安泰であったわけではなく、何度も喪失の危機に見舞われてきた。

武家の都として栄えた鎌倉は、鎌倉幕府の滅亡や室町時代の鎌倉府の消滅によって荒廃し、明治時代の神仏分離令による廃仏毀釈の風潮により社寺は大きな打撃を受けた。加えて、関東大震災では多くの歴史的建造物が損壊し、貴重な文化資源の多くが失われた。

このような危機的状况に直面しながらも、今もなお中世の趣や自然、景観が残っていることは、各時代における地域の人々や関係者の保全活動によるものが大きい。

『新編鎌倉志』や『鎌倉絵図』に紹介され、その後江戸時代の遊山の対象となった名所では、鎌倉の歴史が風化しないよう顕彰活動が行われ、その場所の案内や歴史などを刻んだ史跡指導標などが建てられた。これらは、大正6年（1917年）から昭和31年（1956年）の間に鎌倉町青年会や鎌倉町青年団、鎌倉同人会などの民間の団体により、鎌倉に対する郷土愛の具体化と鎌倉の発展を目的として建立された。大正時代以降に建立された後、現在まで定期的に地域の人々やボランティアによる周囲の清掃や草刈りが行われており、風化など経年劣化は見られるが、十一人塚をはじめとして、建立当初の姿を残しているものが多い。

近年では、NPO法人鎌倉ガイド協会が主体となり、史跡指導標を3基建立している鎌倉同人会とともに、史跡指導標の文字の塗料を塗りなおすなど、その保全に努めている様子が折々で見られる。

また、和田塚では、昭和22年（1947年）にその保存を目的の一つに掲げる一般社団法人由比ガ浜青年会が成立しており、以来、定期的な清掃や説明板の設置など、地域の伝承の場を保全する活動が継続している様子が見られる。



写真2-188 十一人塚の史跡指導標
(昭和48年(1973年))



写真2-189 十一人塚の史跡指導標

■整理番号 No.58

【第2章 P220（ウ） 歴史的風土特別保存地区指定の山稜】 歴史的風土特別保存地区を形成する山稜の説明をより明瞭にするべき。

鎌倉市歴史的風土維持向上計画

（ウ） 歴史的風土特別保存地区指定の山稜

鎌倉の景観を形成している山稜の中でも、古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区に指定している山稜は、古都保存法の発祥の地としての歴史的な意義を有し、鎌倉のまちの骨格になるものとして市民、関係団体、事業者や鎌倉を訪れる人々にも広く認知されている。

古都保存法は、この「歴史的風土」の保存を目的として制定された法律であり、「歴史的風土」を「歴史的な建造物や遺跡などと、それを取り巻く樹林地などの自然的環境が一体となって古都らしさを醸し出している土地の状況」と定義している。社寺、史跡、自然的地形が密接に結びついている鎌倉は、まさに歴史的風土の典型例として、現在、市域の約14.5%にあたる573.6haを歴史的風土特別保存地区に指定している。

歴史的風土特別保存地区に指定された山稜では、古都保存法の厳格な運用と市民の意識や活動に支えられ、山稜の樹林と一体となった歴史的環境の保全がなされており、歴史的遺産と調和し、特有の古都の景観を形成する緑の源となっている。

これらの山稜は、本来は自然物であるものの、古都保存法制定に至る経緯や法制定以降の市民・土地所有者等の歴史的風土の保全の理解と協力の実態から、市民・土地所有者等によって積極的に手入れされてきた、地域固有の歴史的風土を形成する歴史的建造物と捉える。

第2章 鎌倉市の維持及び向上すべき歴史的風土

（ウ） 歴史的風土特別保存地区指定の山稜

鎌倉の景観を形成している山稜の中でも、古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区に指定されている山稜は、古都保存法の発祥の地としての歴史的な意義を有し、鎌倉のまちの骨格になるものとして市民、関係団体、事業者や鎌倉を訪れる人々にも広く認知されている。

古都保存法は、この「歴史的風土」の保存を目的として制定された法律であり、「歴史的風土」を「歴史的な建造物や遺跡などと、それを取り巻く樹林地などの自然的環境が一体となって古都らしさを醸し出している土地の状況」と定義している。社寺、史跡、自然的地形が密接に結びついている鎌倉は、まさに歴史的風土の典型例として、現在、市域の約14.5%にあたる573.6haが歴史的風土特別保存地区に指定されている。

歴史的風土特別保存地区に指定された山稜では、古都保存法の厳格な運用と市民の意識や活動に支えられ、山稜の樹林と一体となった歴史的環境の保全がなされており、歴史的遺産と調和し、特有の古都の景観を形成する緑の源となっている。

これらの山稜は、古都保存法制定に至る経緯や法制定以降、土地所有者をはじめとした市民等の理解と協力を得て、歴史的遺産と一体となる自然的環境として保存されてきたことから、地域固有の歴史的建造物と捉える。

■整理番号 No.84

【第6章 P329 事業番号1-5】 事業概要の表現修正及び写真を追加

事業番号1-5	
事業名	歴史的建造物の保存整備事業 ※ この事業の「歴史的建造物」とは、文化財の指定その他の指定のない歴史的建造物をいう。
事業主体	鎌倉市・民間所有者等
事業期間	令和8年度～令和17年度
事業手法 (支援事業名)	地域の観光資源充実のための環境整備推進事業（令和8年度～令和17年度）
事業位置	重点区域
事業概要	文化財等に指定されていない歴史的建造物（塚、石碑、道標、庚申塔等）について、実態を把握するために調査を実施し、 <u>学術的、歴史的等の価値を明らかにするとともに、その保存・整備・活用を検討する。</u>
事業が歴史的風致の維持及び向上に寄与する理由	重点区域内に点在する位置付けのない歴史的建造物の中には、長年、市民に親しまれ、地域の魅力の一つとなっているものがある。その価値を明らかにし、保存・整備・活用を図ることで、地域の歴史を継承と良好なまち並み景観が形成できることから、歴史的風致の維持向上に寄与する。



事業番号1-5	
事業名	歴史的建造物の保存整備事業 ※ この事業の「歴史的建造物」とは、文化財の指定その他の指定のない歴史的建造物をいう。
事業主体	鎌倉市・民間所有者等
事業期間	令和8年度～令和17年度
事業手法 (支援事業名)	地域の観光資源充実のための環境整備推進事業（令和8年度～令和17年度）
事業位置	重点区域
事業概要	文化財等に指定されていない歴史的建造物（塚、石碑、道標、庚申塔等）について、実態を把握するために調査を実施し、 <u>学術的、歴史的等の価値を明らかにするとともに、その保存・整備・活用を検討し、実施する。</u>
写真6-● 和田塚 写真6-● 石碑 写真6-● 石塔	

■整理番号 No.87

【第8章 P373 2(2) 歴史的風致形成建造物の維持及び管理の方針に関する個別の事項】 個別事項に関する表現を修正

第8章 歴史的風致形成建造物の維持及び管理の方針に関する事項

第8章 歴史的風致形成建造物の維持及び 管理の方針に関する事項

1 歴史的風致形成建造物の維持及び管理の基本方針

歴史的風致形成建造物の保存のための維持管理にあたっては、指定対象となった個々の文化財等の保護の指針に従うことを基本とし、周囲の景観への影響や建造物の特徴を十分に配慮した適切な措置を講じる。また、保存のための修理や修景、防災上の措置などを行う場合には、学識経験者などの専門家の意見を踏まえて実施する。

歴史的風致の維持向上を図るため、公開活用についても積極的に推進し、パンフレットやホームページなどで周知に努めるほか、イベント等を通じた普及啓発についても検討するものとする。

2 個別の事項

(1) 県指定文化財・市指定文化財である歴史的風致形成建造物

建造物の外部及び内部とも現状維持を基本とし、県及び市の文化財保護条例に基づく現状変更等の許可制度による保護を図る。これらの建造物を維持・保存するための修理については、各種調査に基づいて行われる建造物の外部及び内部を対象とした、修復・復原を基本とする。

第8章 歴史的風致形成建造物の維持及び管理の方針に関する事項

第8章 歴史的風致形成建造物の維持及び 管理の方針に関する事項

1 歴史的風致形成建造物の維持及び管理の基本方針

歴史的風致形成建造物の保存のための維持管理にあたっては、指定対象となった個々の文化財等の保護の指針に従うことを基本とし、周囲の景観への影響や建造物の特徴を十分に配慮した適切な措置を講じる。また、保存のための修理や修景、防災上の措置などを行う場合には、学識経験者などの専門家の意見を踏まえて実施する。

歴史的風致の維持向上を図るため、公開活用についても積極的に推進し、パンフレットやホームページなどで周知に努めるほか、イベント等を通じた普及啓発についても検討するものとする。

2 個別の事項

(1) 国指定文化財・県指定文化財・市指定文化財である歴史的風致形成建造物

現状維持を基本とし、文化財保護法または県及び市の文化財保護条例に基づく現状変更等の許可制度による保護を図る。これらの建造物を維持・保存するための修理実施にあたっては、学識経験者など専門家の意見を踏まえ、文化財としての価値を損なうことのないよう修復・復原を行うことを基本とする。

■その他修正事項

- ◆ 委員の構成や各計画、文化財の指定数は令和8年4月1日時点など可能な限り最新の情報に更新
- ◆ 「江の島」・「江ノ島」などばらつきのある表現を固有名詞として存在するもの以外は表現を統一
- ◆ ルビの位置、キャプションの位置など調整
- ◆ 重点区域外の計画を削除（鎌倉市本庁舎整備方針・鎌倉市本庁舎等整備基本構想）
- ◆ 掲載許可が取れなかった写真の置き換え
- ◆ 「助詞の変更」、誤字等の修正
- ◆ 年度表示の修正